

令和4年度 世界へのトビウ事業勉強会 開催報告

1. 日時 令和4年3月8日(水) 10:00~12:00 (受付 9:30~)

2. 会場 浦和合同庁舎5階 第5会議室

3. 参加者 32名 (外国人講師:17名 日本人講師・アドバイザー:15名)

4. 開催内容

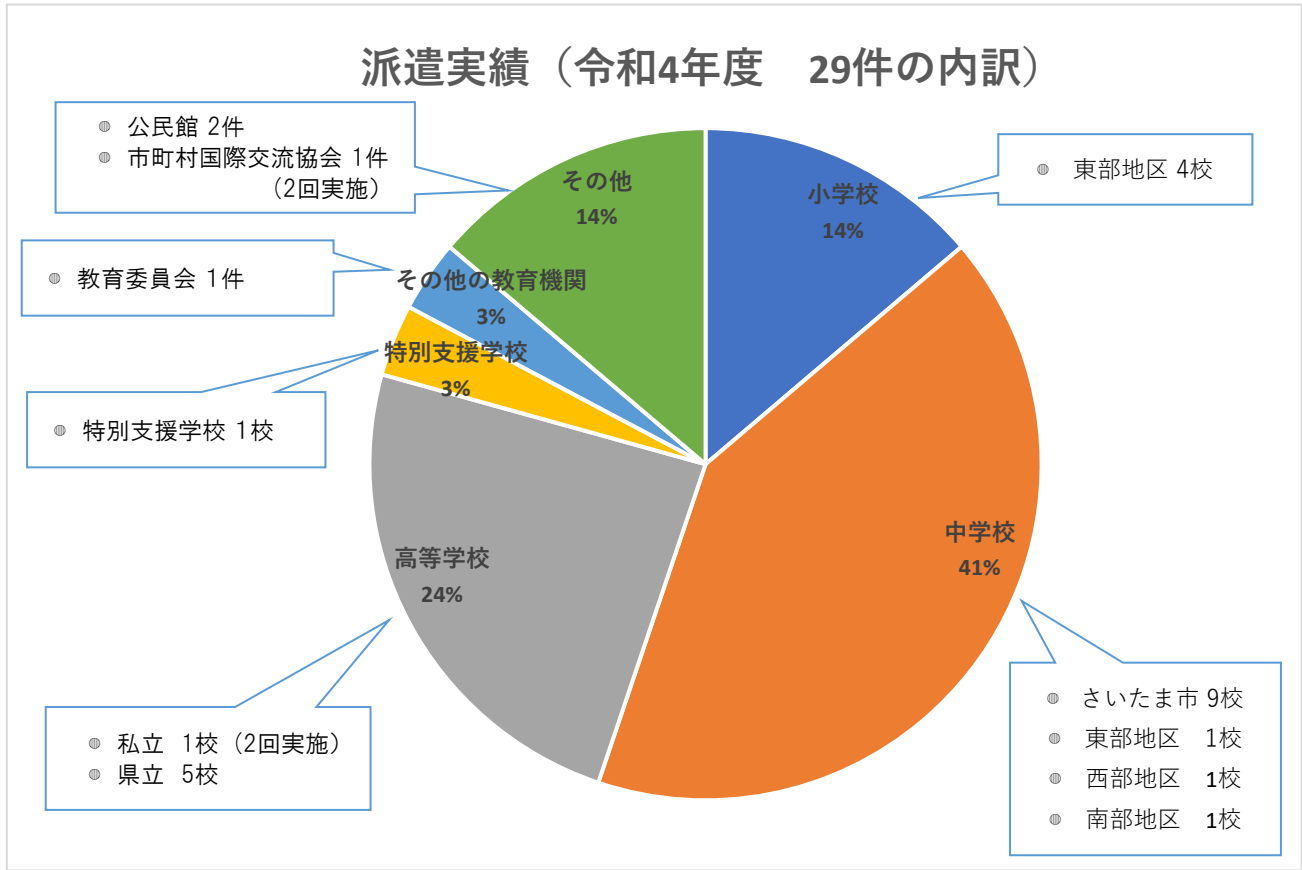
①SDGsを取り入れた授業の組み立て方法について

②PPT(パワーポイント)の有効活用方法について

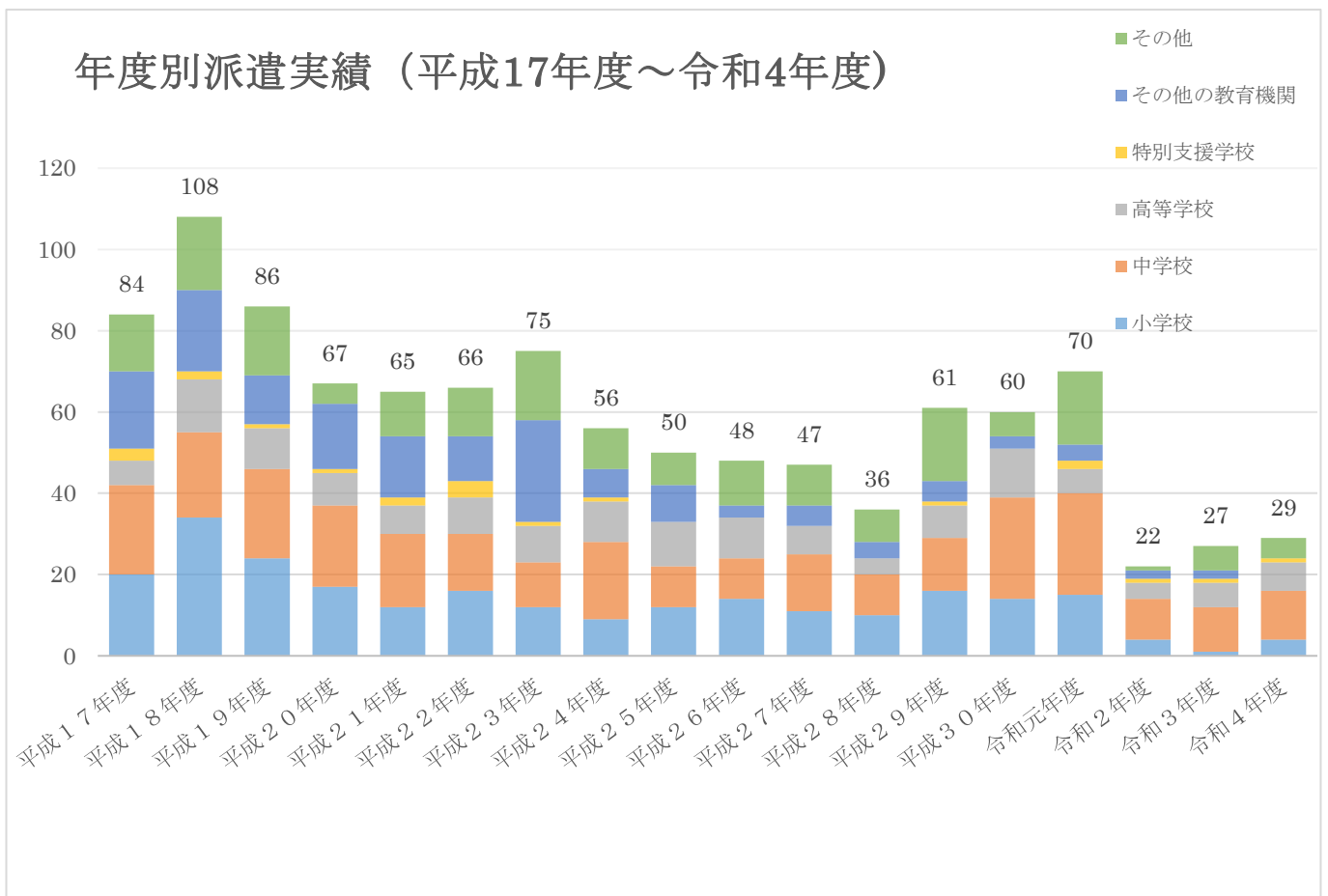
③効果的な全体会の実施方法について

時間		内容
10:00~10:10	10分	事業実績報告
10:10~10:40 ①	30分	・事例紹介 鈴木 マルタエレナさん ・グループでの意見交換 「母国でのSDGsの取り組みは？」 代表者による発表
10:40~11:20 ②	30分	・事例紹介 ディプティ アナンダ ムルティさん グエン ホアン ロンさん 西川 ナンシさん ・グループ意見交換 「有効活用方法とは？」 各グループより代表者の発表
11:20~12:00 ③	40分	・事例紹介 井上 くみ子さん ・全体での意見交換 「講師の希望は？」「アドバイザー誰でもできる方法は？」
12:00~12:10	10分	・事務局からの提案等について意見交換 「交通費について」 学校にお任せして協会からの明細をなくす方法について 「講師選定方法について」 全員に依頼内容を知らせて挙手制で活動してもらう方法について ・アンケート記入

【本年度の実績について】

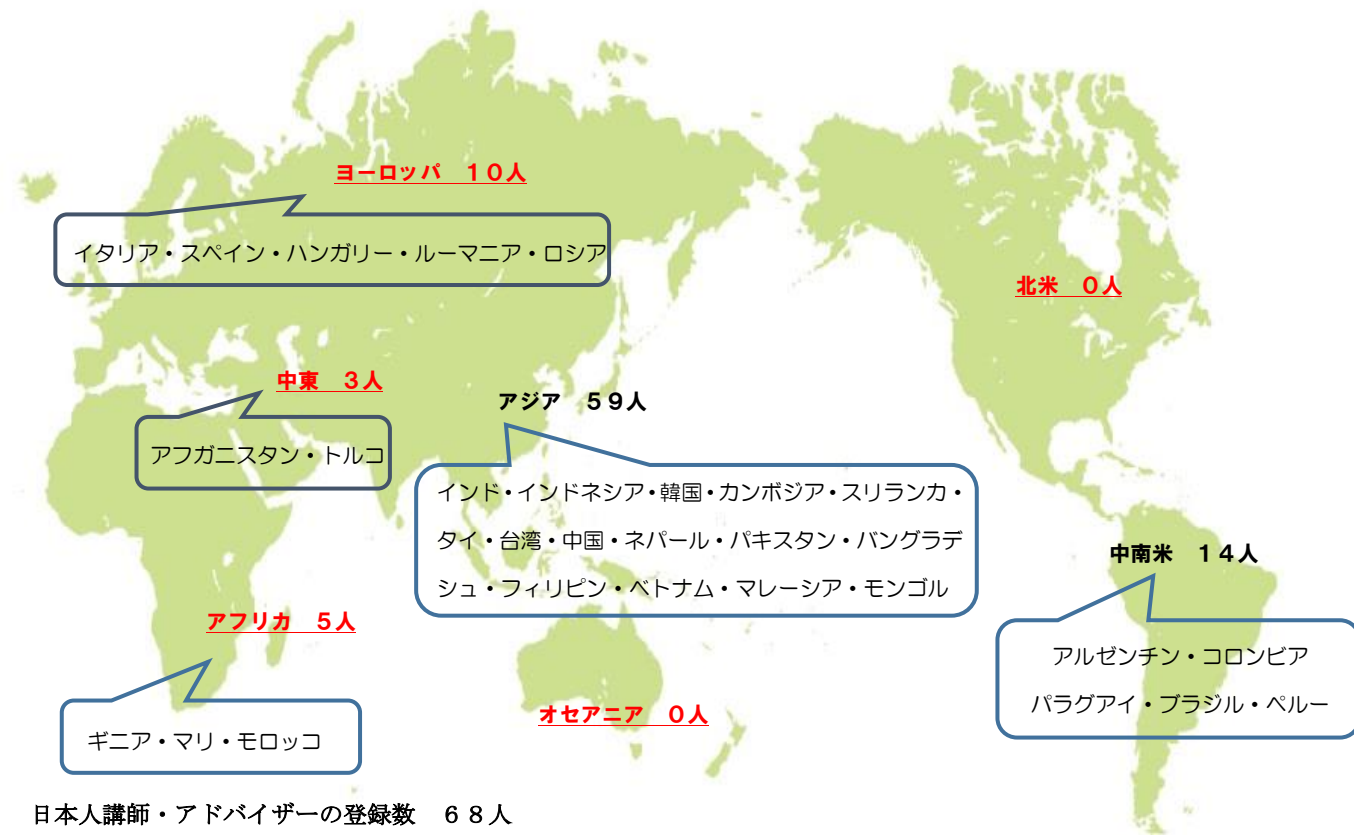


世界へのトビウ事業では学校からの依頼が毎年8割ほど。依頼地域はさいたま市が中心。コロナ禍の影響もあり、リピート依頼の学校が9割という結果だった。



コロナが始まって3年が経ち、件数は少しずつ回復してきている。来年度は30件～40件くらいを予測している。

【現在登録している外国人講師の数】91名（R4年度）



日本人講師・アドバイザーの登録数 68人

- 青年海外協力隊元隊員 38人
- NGO活動 9人
- その他・アドバイザー 21人

登録者数は、外国人講師が91名、日本人講師とアドバイザーが68名。日本人講師の依頼は1割ほどと少ないが、依頼件数が増えれば活躍の場も多く提供できると思う。外国人講師については埼玉県在住の方がアジア・南米の方が多いのに比例した登録数となっている。講師登録はいつでも募集をしているので、ご出身の地域関係なくぜひお知り合いで興味のある方がいれば事務局に知らせてほしい。登録していただいている人数に対して活動していただいている人の数が限られてしまっているというのが、今後のトビウ事業の課題となっている。ぜひ、みなさんに平等に活躍の場を提供していきたい。

【①SDGsを取り入れた授業の組み立て方法について】

事例発表：鈴木 マルタエレナさん（コロンビア）



- ⑭ 貧富の差による、治安悪化。貧しい地域に対しての教育面の対策。
- ⑰ 日本とコロンビアの降雨量の違いからエネルギーの使い方の比較。
- ⑱ 車等の排気ガスによる大気汚染を改善するために国民みんなで行っていること。
- ⑲ アマゾンの森林伐採に対する国の目標。

国の紹介と 17 の目標の何番に対して、どのような取り組みをしているのかをパワーポイントを用いながら、国の良いことも悪いことも含めて紹介。特産品のコーヒー豆に関するクイズを入れたり、自分のパーソナルな情報を入れたりして飽きることがないようにスライドと話を組み立てている。

その他の国での事例発表と17の目標との関連。

◆フィリピンのスモークマウンテンというゴミ山について。①⑪⑱

◆インドのトイレ事情について。貧富の差が大きく外にはパブリックトイレがなかった。③⑥

今と昔の違いを伝える中で、国の取り組みと世界の目標をからめることができる。いつも話している国の紹介の中に、少しSDGsに触れることを入れることで、より国の理解が深まる。またその話を聞いた生徒が日本との違いを考える。さらに自分は未来に向けて何ができるかを考えるきっかけをつかんでもらうことにつながる。

【②PPT（パワーポイント）の有効活用方法について】

普段使っているパワーポイントの資料の共有とより良い使い方を考え、各グループで発表。

事例共有：グエン ホアン ロンさん（ベトナム）

ディプティ アナンダ ムルティさん（インド）

西川 ナンシさん（アルゼンチン）

A：たくさんの写真やスライドを用意しておくが、学校によって見せるものを選んで準備する。

またラミネートした写真や旗など、持参した物については生徒との触れ合いのツールとして使い、コミュニケーションをとっている。クイズでスライドを使うのはいい考えたと思った。

B：接続の問題もあるので、パワーポイントに頼りすぎないことが大切。体験や交流できる時間を必ず作って楽しんでもらうように意識している。そのためにスライドにも面白い写真を入れている。クイズは授業のまとめとして、ちゃんと話を聞いてくれたかどうか確認の意味で入れている。

C：学校によって目的が違う。講師としてのメッセージを込めてスライドを作っている。話を聞いてほしいので、文字を入れないで写真で作るようにしている。

D：説明は現場でもらい、スライドにはポイントのみ入れる。個人的な内容でネットには出てこないことで作る。講師を見てもらうことが大切。

E：学校に行くことが多いので、学校の話は絶対に入れる。民族衣装やゲームなどで飽きさせないように実物も使って工夫をしている。注目させるために写真を活用している。



学校現場の声

蕨高校に所属している英語の教員である森丘先生より、学校現場からみた外部講師への意見や要望、アドバイス。

- ・ **小中高それぞれのレベルに合わせた授業を**。小学校は楽しく体験することがいいけど、高校生は少し踏み込んで考える時間を作る。グループワークにして意見を出し合ってもいいと思う。
- ・ 学年、クラスによっても静かだったり、にぎやかだったりそれぞれ違う。**反応がないことを気にしすぎないで**ほしい。それがキャラクターなので。
- ・ ただ、反応がなくてもあきらめずに話をしてほしい。例えば、2択にして手上げ方式にする。そこから、反応があったらさらに指名して、なぜ？なに？と聞いてみる。リズム運動や体を動かすことを入れてみる。
- ・ アドバイザーには学校が求めていること、知りたいと思っていることをしっかり講師の方に伝えてあげて欲しい。授業を組み立てるのは講師なのでうまくパイプ役になってほしい。
- ・ パワーポイントは学校でも使われるようになって、小・中学校はテレビで、高校は各教室にプロジェクターがあり生徒にとっても身近なものになってきている。画面ばかりに目が行くようにはしないでほしい。やはり外部から講師を呼んでいる意味というのは、**目の前で交流できることの大切さ**だと思うので、**生徒を見ながら話を**してほしい。

【③効果的な全体会の実施方法について】

全体会とは、各教室で話をする前に、体育館などに対象生徒と先生、講師が集まって自己紹介をしたり国の違いを感じてもらったりする、教室に入る前に行う会のこと。

事例発表：井上 くみ子さん（アドバイザー）

普段使っているパワーポイントの資料を使いながら、普段の全体会概要のお話。

インタビュアーとなって講師と生徒をつなぎながら、簡単な質問を通して講師同士、生徒同士、また講師と生徒との間に「おなじって嬉しい！！ちがうって楽しい！！」を感じてもらい、今日来ている各国の講師は決して国の代表ではないので、その人のパーソナルを見てもらえるように、またこの後の**各教室での授業を楽しみに思えるように**組み立てている。

SDGsについて触れる場合は、遠い国の話で壮大な取り組みなのだと思うのではなく、例えば外国人が身近にいるとき、やさしい日本語を使って相手を思いやって話をする。これも立派なSDGsなのだ伝えることで、身近な自分にできることは何かを考えてもらえるように話をしている。教室で講師が話すことの中から、世界の目標につながっていることを自分たちでも考えてみてほしいと教室へ送り出す。

全体会を経験した外国人講師の意見

- ・ 体育館から教室へ移動しているときから、生徒がワクワクしているのがわかる。教室に入ってからもうやりやすい。
- ・ 反応が少ないクラスを担当することもあるし、全体会がなくてクラス間を移動して同じ話を2回するのは大変。やりづらいと思うこともある。
- ・ 全体会の中で、今日は「国際交流を楽しくしよう」という雰囲気講師から作ることができる。
- ・ 講師のキャラクターがわかった上でクラス活動に入ることができる。全体会があるのとないのでは**教室でのパフォーマンスや授業運営が全然違う**と感じる。
- ・ 自分のクラスに来る講師以外の国について、各国のイメージを伝えることができる。
- ・ 講師も他の国のことは知らないから、全員の講師の話が聞けることがうれしい。
- ・ 生徒が自分の興味ある国の話を聞くという学校がある。全体会を通して他の国の話を聞く機会があ

る事で、**自分が選んだ国以外にも興味を持ってもらえる。**

- ・母国のことを伝えるということだけではなく、外国人として日本に住んでいる立場での話も伝えることができると思う。

全体会を経験したことのあるアドバイザー、未経験のアドバイザーからの質疑応答

- ・学校からの要望があれば全体会を入れているが、導入の提案をしても多くは移動に時間がかかると断られることが多いがどうすればいいか？どのように提案するといいいのか？

⇒移動時間について。講師は放送室から、生徒は各教室で話を聞くという方法で移動なしの方法を取り入れた経験があるので提案してみてもいいか。

⇒提案について。無理強いして導入する必要はない。ただ講師の魅力を学校より理解しているのはアドバイザー。講師全員の話を聞く機会を作ってもらうメリットを伝えると理解を得られると思う。

- ・アイスブレイクの意味もあるのが全体会だと理解した。時間配分はどのくらいで行っているのか？

⇒50分2コマの時間をもらっているのであれば、全体会40分+移動10分+授業60分。学校の調整にもよるので、全体会を20分という場合もある。学校との事前のすり合わせで決めている。

- ・全体会の中で、校長先生の話が長くほとんどこちらの持ち時間が無くなってしまったことがある。

⇒絶対校長先生の話があるわけではないので、全体会での内容についてはこちらにお任せいただけるように時間配分を含めて、事前にすり合わせておく必要がある。

- ・全体会で話す内容と授業で話す内容が重なることはないのか？全体会の内容についての打合せはどうしているのか？

⇒アドバイザーが基本的にはインタビュアーとなって仕切っているもので、聞いたことについて答えてもらっている。当日もしくは前もってこんな内容を聞くと伝えておく。初めてご一緒する講師は普段どんな話をするか聞いておいて、授業内容と重ならないように配慮している。

⇒使える時間が決まっているので、例えば一人5分という風に時間を分けて講師に話してもらうのでは、聞いているほうも話しているほうも大変。キャッチボールができるような内容で考えている。

まとめ

多くの講師の意見として全体会があると、教室での授業がやりやすくなるということがわかった。学校からの依頼があつてこそ、話をする機会があるので学校の要望により沿いながらも、アドバイザーとして全体会の導入について提案していくことも必要。外国人講師の方は皆さん魅力的な方ばかり。全体会はアドバイザーが話す場ではなく、あくまでその魅力的な**外国人講師が主役**となるように組み立てることが大切。1つの国の話を教室で聞くことは異文化理解を深めることにつながると思うが、全体会をすることで様々な国の講師の話を聞くことができ、**多様性を知ることに繋がっている。**

今回3つのテーマについて話し合ったが、この勉強会を通してそれぞれの立場で、ご自身の活動に生かせる学びを数多く持って帰ってもらうことが、事務局として開催する勉強会の意義だと考えている。1つの国を入口に世界を知る。そんな体験をたくさんの方にしてもらえよう、今後も皆さんと一緒により良い世界へのトビラ事業のやり方を考え、学びあっていけたらと思う。



【事務局からの提案について】

◆交通費について

依頼先（学校や公民館等）が謝金を支払っているが、今までは明細を協会が作成していた。今後は謝金の支払い先に明細も準備をお願いして、協会からの明細作成をなくすことを検討している。

◆講師の選定方法について

外国人講師の派遣はアドバイザーとセットで派遣をしている。現在、依頼を受けた事務局がアドバイザーを選定。その後アドバイザーが講師を決定して学校への周知連絡をしている。登録数に対して活動している講師やアドバイザーが限られていることで、現在の方法だと平等に機会を作れていない状況があると感じている。今後は依頼を受けた事務局が、アドバイザーと外国人講師全員にメールで日程や内容を案内。挙手制にて先着順でそれぞれの担当を決める方法を検討している。アドバイザーの最終決定は回数のバランスや内容を考えて事務局が行い、講師の最終決定は内容とのバランスを考慮してアドバイザーが行うということではどうか？

皆さんの意見

- 依頼は平等に受け取れる方がいいと思う。
- 定員をオーバーしてやりたい人が集まってきたらどうするのか。
- 何回もやりたいと手を挙げても、選ばれなかったら悲しい。
- アドバイザーとしてすべての講師を知っているわけではないので、講師のことを知る機会が欲しい。
知っている講師の方が安心だし、こういった勉強会に参加している講師はやる気のある方だから積極的な方とは一緒にしたいと思う。

今回の提案は決定事項ではないが、今後は意見を参考にして皆さんが活動しやすく、かつ平等に機会が得られるよう方法を考えていきたいと思う。